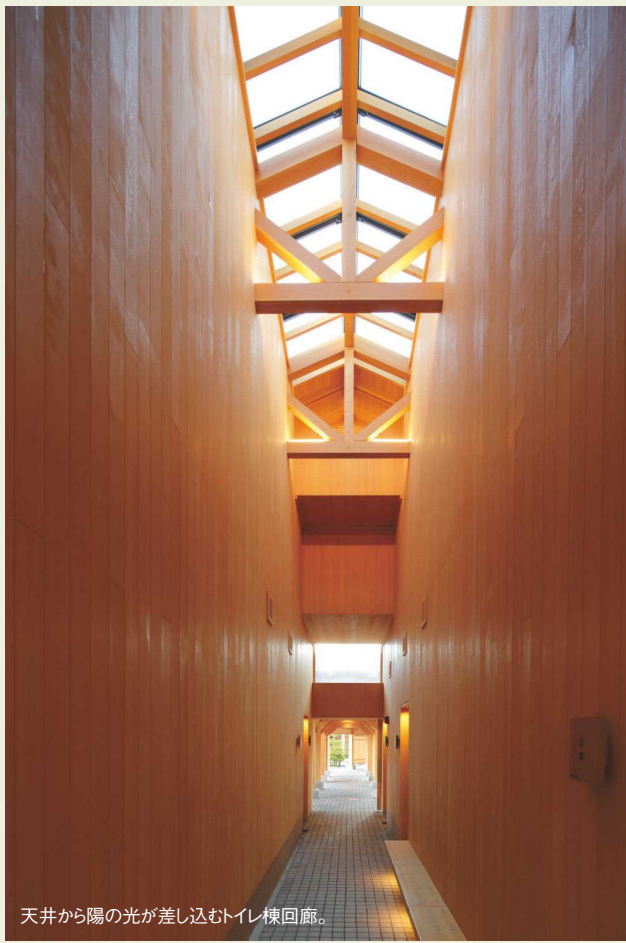


トイレカ 草津温泉湯路広場トイレ 群馬県吾妻郡草津町

え、ーニこがトイレ? それとも高級旅館?

情緒漂う街並みに溶け込んだ草津湯路広場のトイレ棟は、石畳のアプローチや木の回廊がラグジュアリーさを醸している。「瞬トイレ」と思えない高級感に利用者からは歓声上がる。昨年9月に日本トイレ大賞を受賞。

日本の「トイレ技術」は、海外のセレブたちを驚かせるほど優れている。例えばポップスターのマドンナは、来日の際に「ウォッシュレット」と出会って、たく感動しその場で購入、以降は来日するたびに新製品のチェックをしているのだとか。そんな、世界が驚く日本のトイレを表彰した「日本トイレ大賞」なるものが昨年、日本政府主導で創設されたのはご存知だろうか。この賞には、高機能なトイレ、人や環境にやさしいトイレなど、快適で優れた「トイレ空間」であることを賞した空間部門」と、途上国での設置支援、災害用トイレの開発、観光



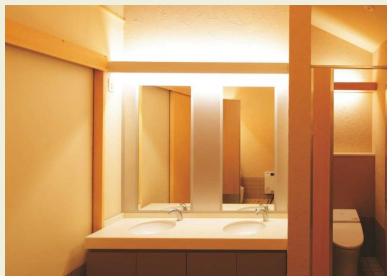
天井から陽の光が差し込むトイレ棟回廊。



湯路広場にある公衆トイレの外観。

客への配慮など、トイレに関する取り組みを賞した「活動部門」の2部門がある。記念すべき第1回目に表彰されたのは全部で28件。その全容を調べてみると、思わずため息が漏れるほど「すごいトイレ」があるのだ。

例えば、兵庫県川西市の新清和台幼稚園にあるトイレは、まるでおとぎの国に迷い込んでしまったような、幻想的なデザインが園児たちを迎えてくれる。また、成田国際空港内の「GALLERY TOTO」は、大型LEDパネルに映し出される斬新な映像や、ガラス張りの空間など、トイレの常識を覆したコンセプトでパッションジャーを驚かせる。そんな中でも筆者が特に気になったのは、群馬県草津温泉の「湯路広場」にある公衆トイレだ(2014年完成)。



いつも清潔な洗面台。

な景色が一望できる場所に設置されたトイレ棟は、周囲を木の回廊が取り囲み、棚田風の石畳が広がる。「え、こがトイレ?」まるで高級旅館か温泉施設と見紛うばかりの景観に、思わず歓声を上げる人もいるという。まちづくりのルールに従い、余計な看板は一切掲げず、「指差しマーク」だけで分かるようにした導線のおかげで、子供からお年寄り、外国人まで安心して利用することができる。何よりオシャレで雰囲気は抜群だ。浴室窓で下駄を鳴らしながら、回廊をそぞろ歩く。「トイレで用を足す」という目的すら忘れてしまいそうな、夢見心地な空間。トイレ館内もまた、粋な趣向が随所にほどこされている。例えば、吹き抜けの天井からは陽の光が差し込み、トイレ特有の閉塞感がまったくない。足元

には間接照明が灯り、五つ星ホテルの廊下を歩いているようなラグジュアリーな気分を味わえること請け合いだ。便座はもちろん全てウォッシュレット。冬でも寒くないようにパネルヒーターが設置されている。そしてなんと、細やかな清掃とメンテナンスが快適さを裏支えている。夕暮れから夜間にかけては、暖色の灯りが棟全体を照らし出し、昼間とはまた違った温泉街の情緒を醸し出す。うーん、こんなロマンティックな気分がトイレを眺めることなんて、そう滅多にないだろう。これを機に群馬県では、「公衆トイレをグレードアップしよう」という取り組み「ぐんまビジタートイレ認証制度」が始まった。これは群馬を訪れた人々に快適なトイレ空間を提供している施設を応援するもの。こちららも「日本トイレ大賞」と「地方創生担当大臣賞」に輝いている。

トイレが快適だと、それだけで「ホスピタリティ」を感じるもの。日本が「おもてなしの国」と呼ばれるわけの一つには、こんな並外れた「トイレカ」があるからだろう。

(黒田隆憲)